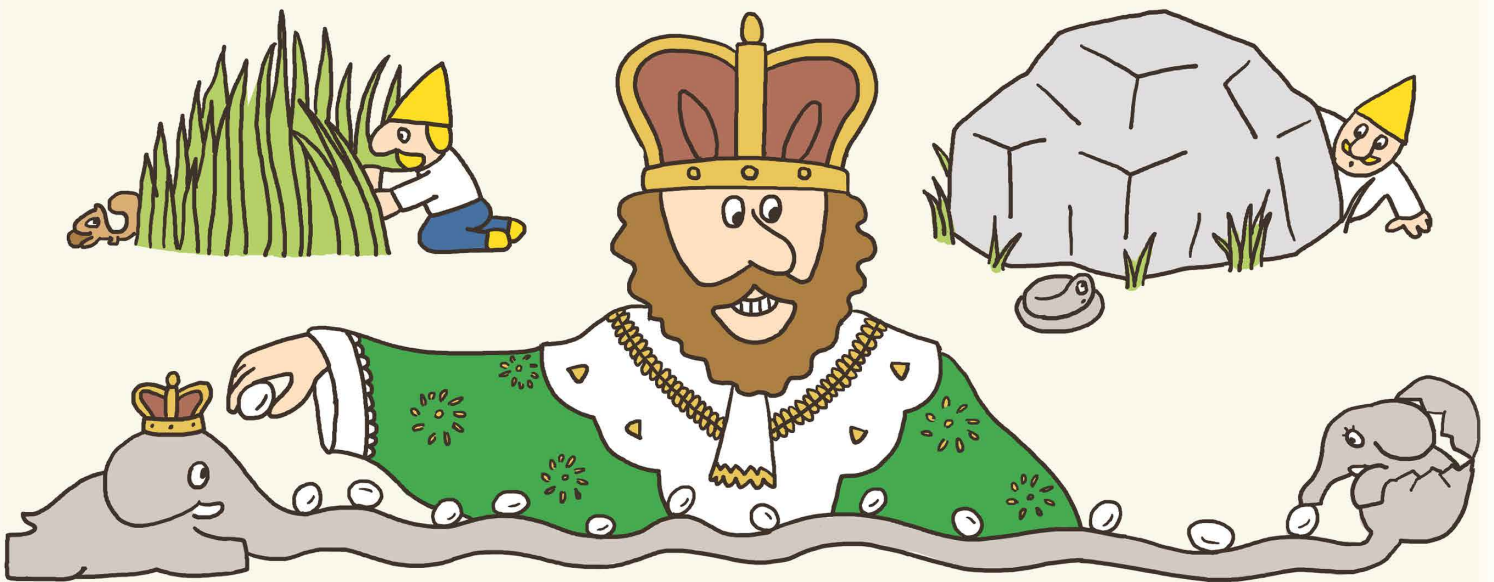


ぞうのたまごのたまごやき



てらむら てるお
作 寺村 輝夫

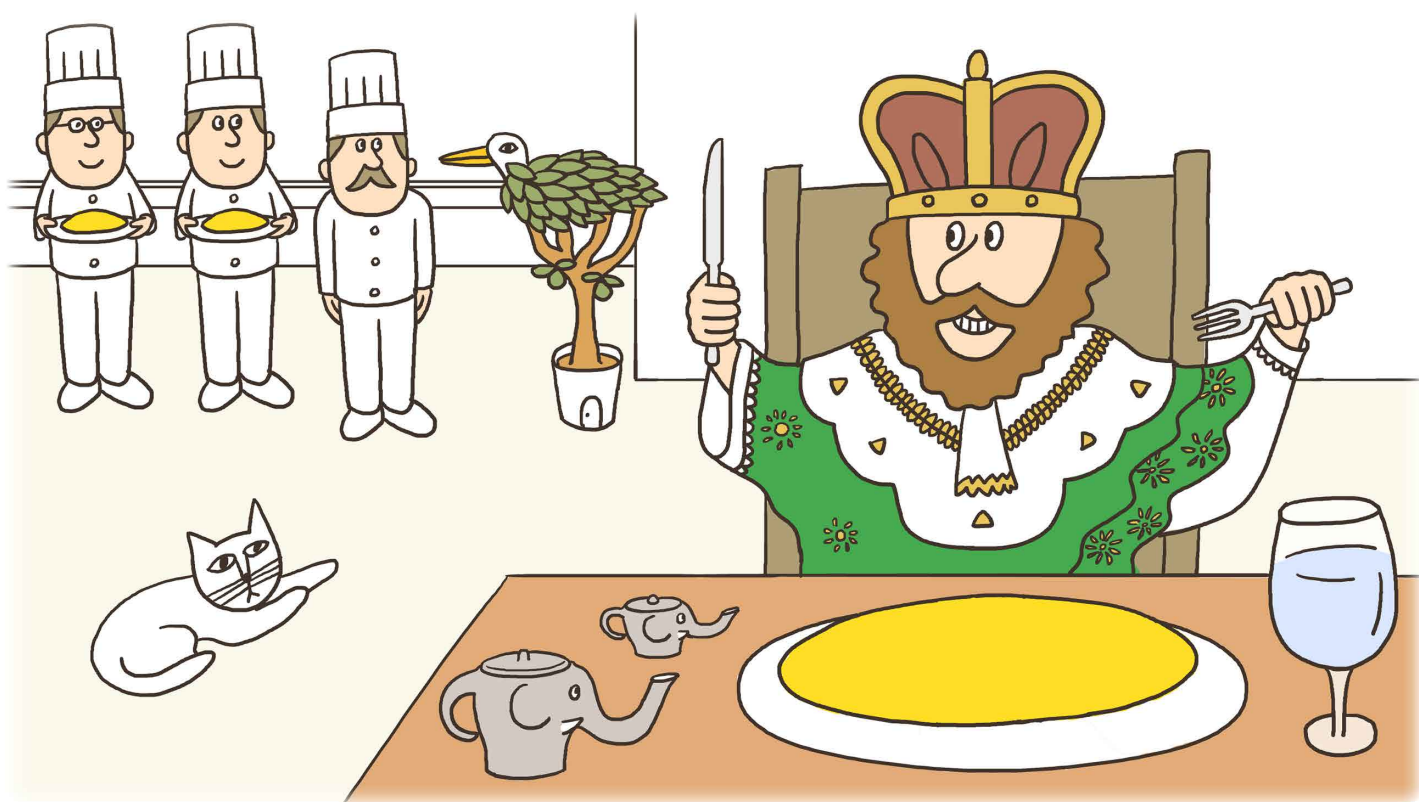
イラスト たきざわ とおる
瀧澤 徹 (サンダースタジオ)

王さまに、——なにが、いちばん好きですか——
ときいたら、

「たまご。」とこたえました。

「たまごやきが いちばんうまいよ。あまくって
ふうわりした、あったかいのが いいね。」

王さまは、あさも、ひるも、よるも、いつも
たまごやきをたべていたんだそうです。



王さまのうちに、あかちゃんがうまれました。

まるまるとふとった

たまごのようにかわいらしい
王子さまでした。



王さまは すっかりよろこんで、

だいじんのワンさんをよんで いいました。

「おいわいをしよう。」

くにじゅうの人たちをおしろにあつめて、

うんとごちそうをしてあげよう。」

ワンだいじん「ごちそうは なににしましょうか。」

王さま。」

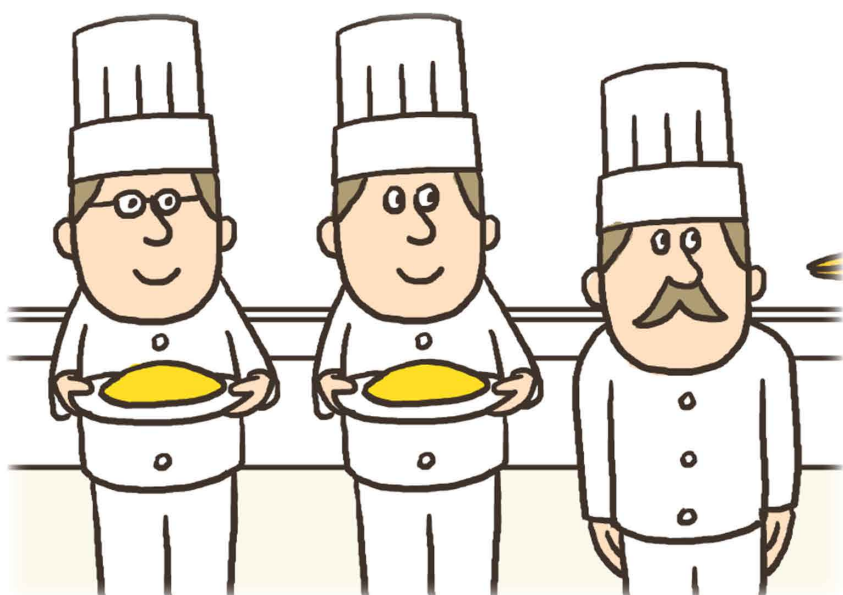
王さま「ごちそうは たまごやきに きまっているさ。」

あつまった人たち みんなに

たまごやきをごちそうするんだ。」

「あまくって ふうわりした、

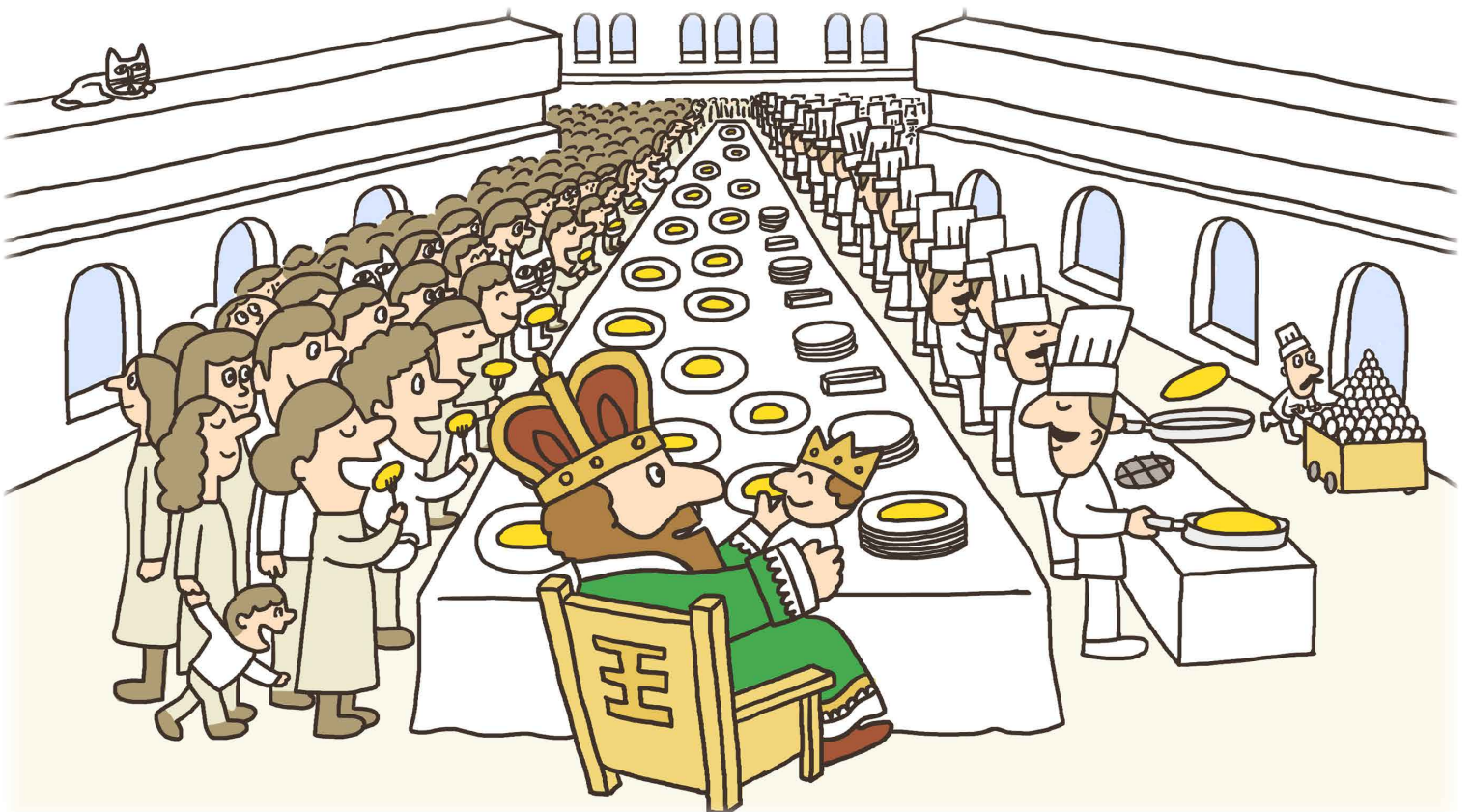
あつたかいのがいいね。」



が、たいへんです。

くにじゅうの^{ひと}人があつまるんですから、
たまごはいくつあってもたりません。

なん^{ひゃく}なん^{ぜん}千もいるのです。



「王^{おう}さま、ほかのごちそうで

まにあわせましょう。」

王^{おう}さまは、これをきいて、おこつてしまいました。

「いや、いかん。ぜつたいに たまごやきだ。」

たまごやきでなかったら、おいわいはやめだ。」

王^{おう}さまつて、わがままで いばつてますね。

だいじんが こまっていると、こんなことを
いうのです。

「ぞうのたまごを

もつてくれば いいではないか。」



「ぞうのたまごなら、大きいから いいよ。

あまくって ふうわりした あったかいのが
みんなで たべられるよ。」

ワンだいじんは、ポンと手をうって いいました。

「ほほう、なるほど、ぞうのたまごなら

大きいでしょうね。」

では、すぐ けらいにいつて、ぞうのたまごを
七つななか 八つやっ、みつけてこさせましょう。」

だいじんのいうことを きいて、王おうさまは

ふとつたからだを ゆすぶつて にごにごしました。

「なるべくはやく

おいわいだ。」



だいじんのワンさんは、さっそく
けらいをあつめていいました。

「王子さまが うまれた おいわいに

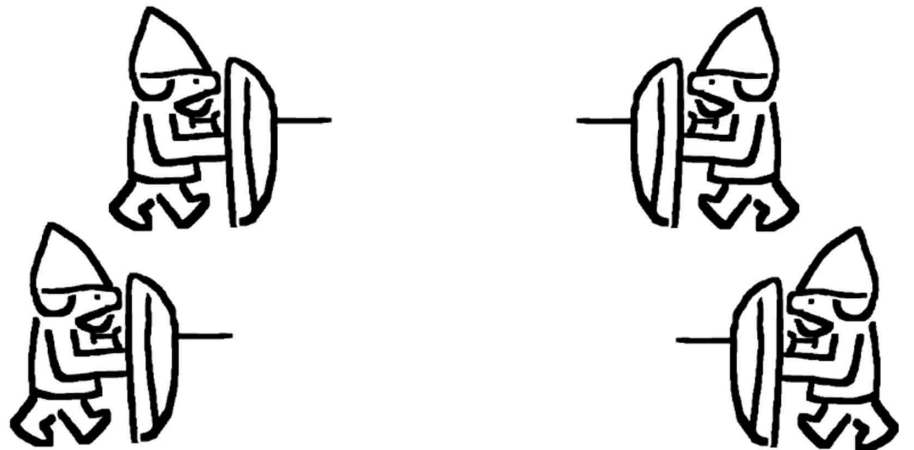
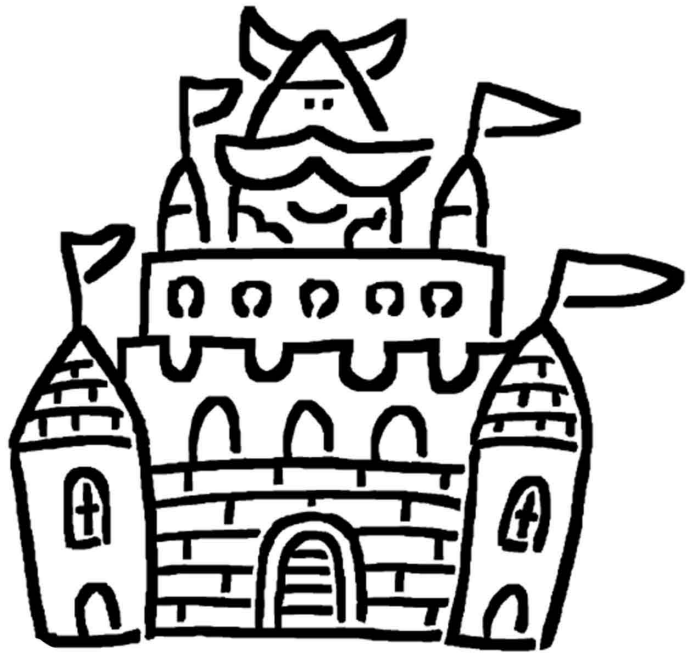
くにじゅうの人たちを おしろにあつめて、

みんなに たまごやきを

ごちそうすることになった。

そこで、ぞうのたまごを みつけてこい。

七つか 八つ、さがしてこい。」



プルルップトロロット
タララッタターーーア
ラッパがなって
しゅっぱつです。
へいたいたちは
うたいながら
すすみました。



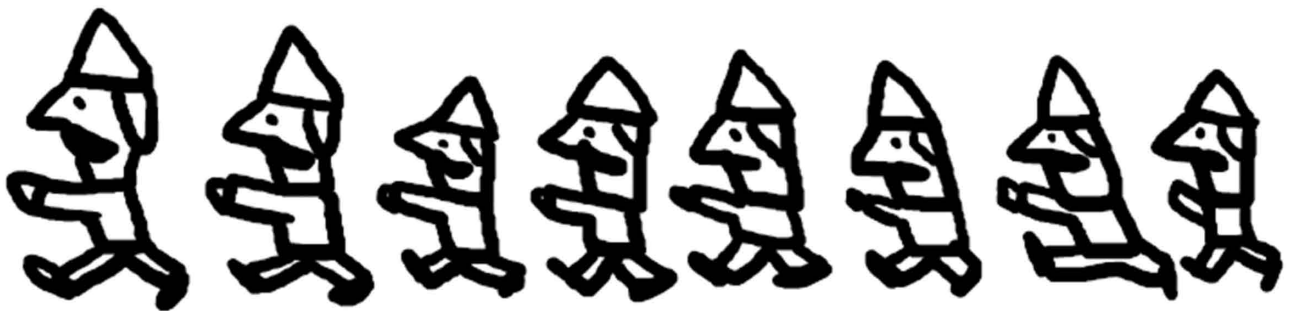


ぞう。ぞう。ぞう。

たまごを うんだ ぞう。

たまごを だいてる ぞう。

はやく でてこい ぞう。



だいじんのワンさんは、

おおぜいのへいたいをつれて、

大きなもりへ やってきました。

ぼうえんきょうには、まだ ぞうが みえてきません。

木とくさのほかにも、

なにも、みえないのでした。

「みんな、いちどに、ピストルを そらにむけて

うつんだ。いいか、一、二、三…。」

ダダーン

するじ——。



どうぶつたちが
びっくりして
にげだしました。

りす・しか・だちょう・

カンガルー・しまうま・らくだ
とら・ライオン・ひょう…。

へびや とかげも
すばやく にげて
いきます。

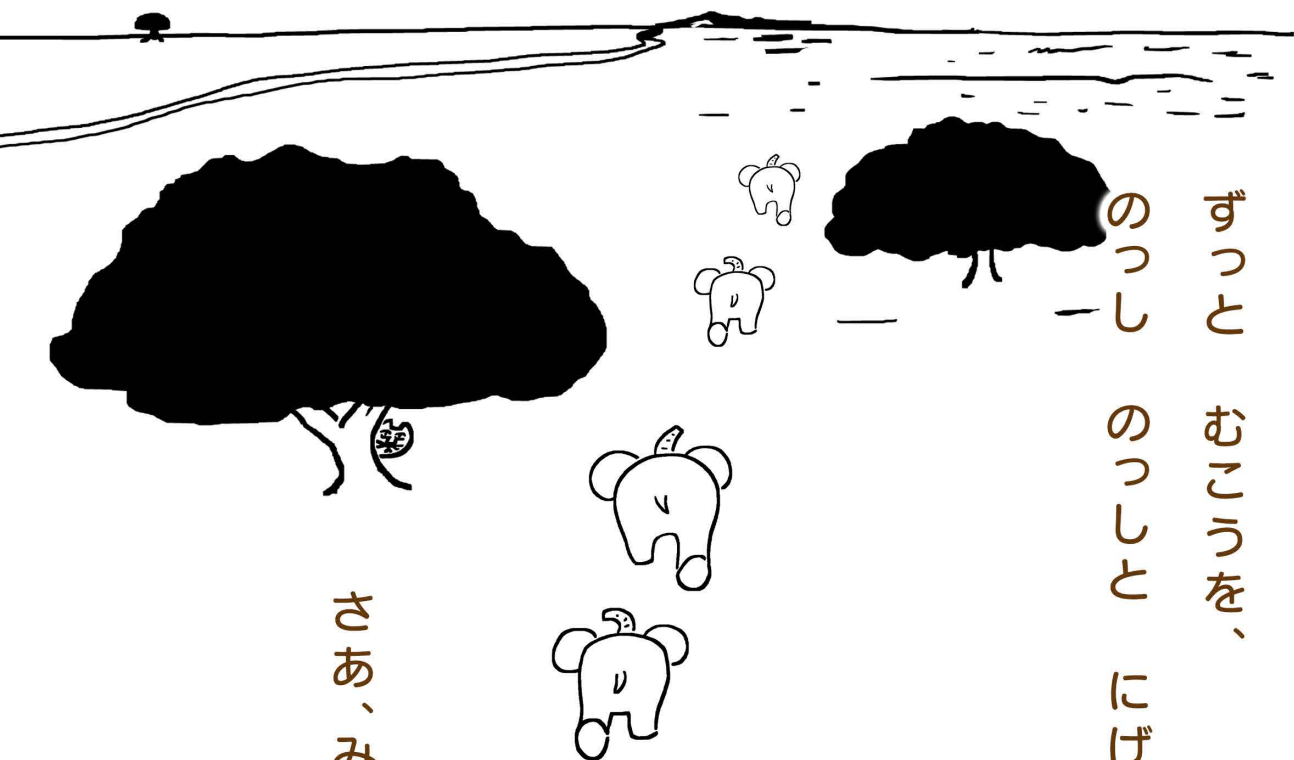


ぼうえんきょうをのぞいていたワンだいじんは、

「あつ、いた、いたつ。そうがいたぞ。

ずっとむこうを、

のっし のっしと にげていく。



さあ、みんな、すすめつ、すすめつ。」

ぞうの にげたあたりに くと、そこに
にげおくれた 子^こぞうが ー^すとう。



「おっ、子^こぞうだ。」

「たまごからかえったばかりらしい。

まだかえっていないたまごもあるはずだ。

さがせ、さがせっ。」

さがしました。

くさむらの中も
なか



いわのかげも

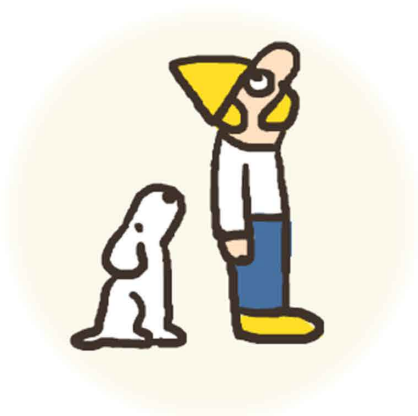
ほらあなも、

みんな

さがしました。

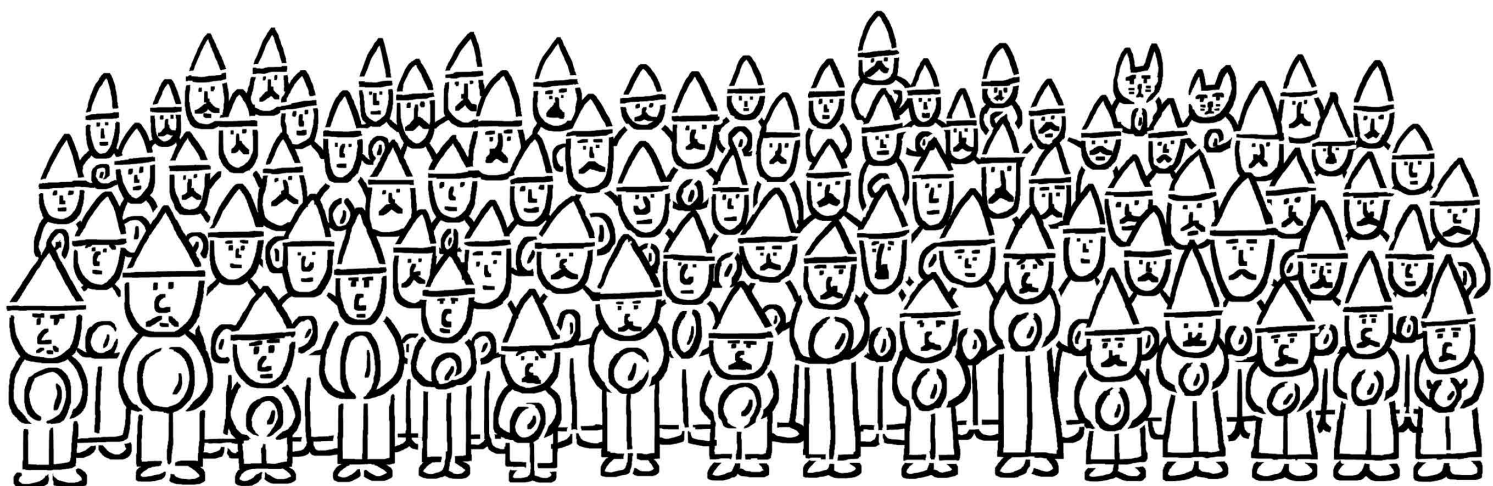


ところで、たまごは あったでしょうか。



ありました。
ありました。

へいたいたちは、
てて
手に手に
たくさん
たまごをもって、
かえつてきました。



が、みんな手に、もてるほど
小さなたまごなんです。

どうもおかしい。

ぞうのたまごは、そんな小さなはずは
ありません。

ワンだいじんは、おこってしまいました。

「そんな小さいんじゃ、だめだっ！」

へいたいたちは びっくりして、手にもつたたまごを、
おとしちゃいました。

「あつ。」

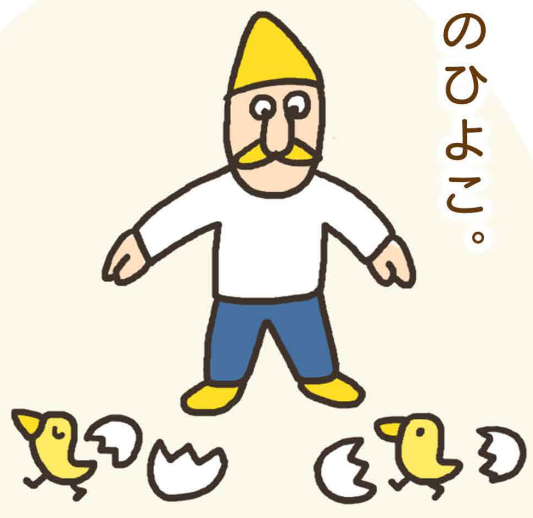


おとしたたまごが ぱつ とわれて、

中なかから ピヨピヨ ピーピー

ひよこがでてきました。

こむりのひよこ。

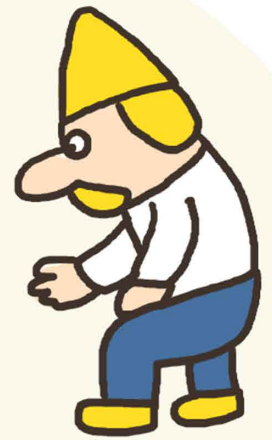


あれあれ、へびのあかちゃんや、

かめのあかちゃんもいます。



だちょうのひな。



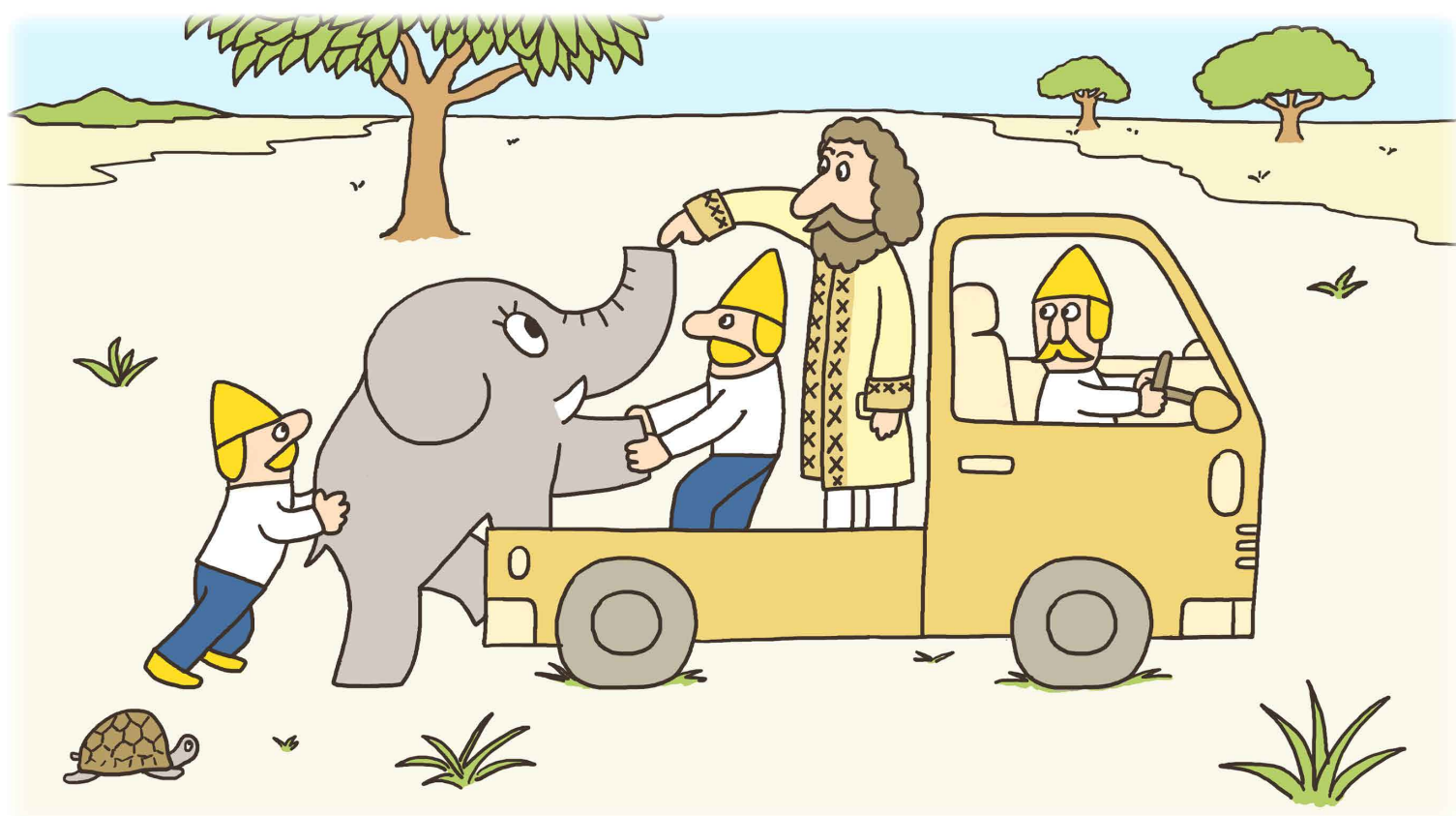
ひよこやあかちゃんが、
ちよこちよこあるき出^だしたのをみて、
どこにいたのか、さっきの子^こぞうがでてきました。

ワンだいじんは、
いいました。

「これだけさがしても、
ぞうのたまごは、なかった。

しかたない。

この子^こぞうをつれて、
おしろへかえろう。」





ぞう。ぞう。ぞう。

たまごを うんだ ぞう。

たまごを だいてる ぞう。

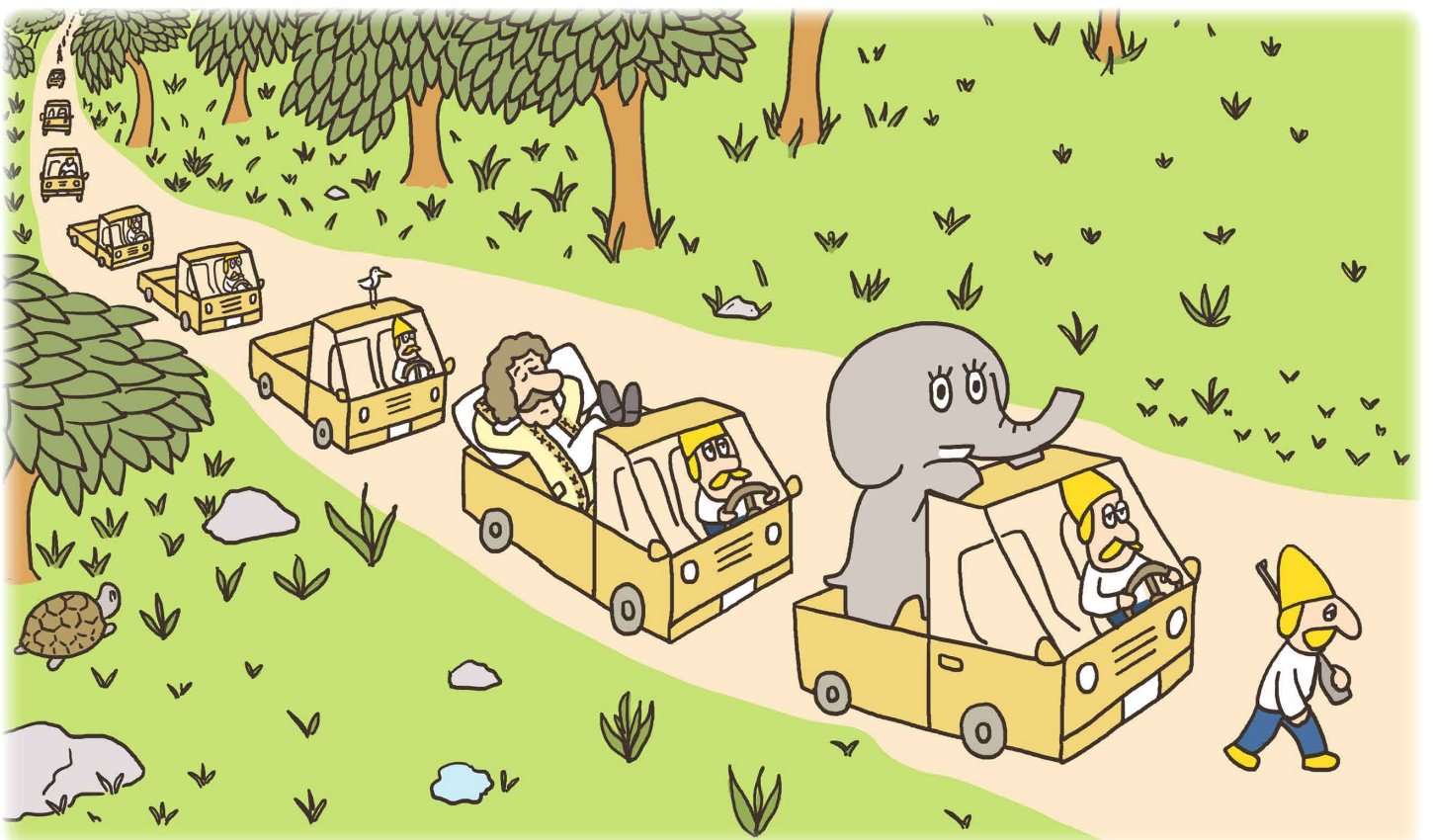
どこにも いない ぞう。

みつからなかった ぞう。

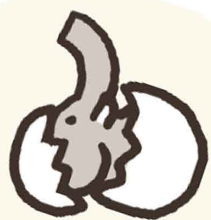


はじめのうちには、へいたいたちも、
そんなうたを、うたっていました、
だんだん、つかれてきました。

ワンだいじんも、とうとう
トラックの上で
ねむってしまいました。



ねむったワンさんは、
ゆめをみました。
ゆめのなかに、
子どもがでてきました。
子どもは、クスツと
わらってから
こんなうたを、
うたうのでした。



ぞうが たまごを うむなんて
ぼくらは きいた こともない
うまれた ときから
うまれた ときから
ちいさな かわいい あかんぼう
ぞうは たまごを うまないよ



ワンだいじんは、はっとして、目をさましました。

「あつそうか。そうは、たまごをうむどうぶつじや
なかつたな。たまごをうむのは、小とりや、

だちようや、へびだけか。」

そうです。そうはたまごをうみません。

みんな、どうして、はやく

きがつかなかったのでしょうか。

王さまも、だいじんのワンさんも、

おおぜいのへいたいたちも、

みんな きがつかなかったのです。

あつはははは………。



でも、だいじんのワンさんが、
つれてかえった子こぞうは、
いつも、かわいらしい目めを、
ぱちぱちさせていました。

そして、王子おうじさまが大きくなったとき、
すっかりなかよしになって、

うまのように、のってあるいたそうです。

